

※あくま一例であり、すべての事業所に当てはまるわけではありません。一部、介護保険外のサービスが含まれています。費用、提供サービス等、詳しくはご利用前に各事業所にご確認ください。

(1) 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ご自宅でもこれからも過ごしたいと考える方や、近所の顔なじみの方と安心して暮らしたいとお考えの方におすすめです。</li> <li>○ 老々介護の方、退院後の生活習慣が定まっていな方。現状の訪問介護では単位数がオーバーしてしまう方、夜間必要な方、転倒リスクがあり自力では立てない方等。</li> <li>○ ご家族と暮らしている方で、日中一人で過ごされているため、食事の配膳、服薬、トイレ介助をしてほしいという利用者様。朝は忙しいのでデイサービスの用意や送り出しをしてほしいという利用者様。旦那様が病院から戻ってくるがどうしたらいいのかわからないため利用したいという方。夜中寝ている間が心配なため、安否確認をしてほしいという方。お風呂に入れてほしいという方。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身の回りのことはご自身でできるが、服薬管理ができない利用者様に対して、1日1回の服薬支援のための訪問を行うことで、症状が安定しました。</li> <li>○ お子様と同居、身の回りのことはすべて介助が必要な利用者様。1日4回、排せつケア、清拭、口腔ケア、輸液管理などのために訪問を行い、ご自宅で最期を迎えられました。</li> <li>○ 認知症、お一人暮らし、受入れ拒否の利用者様。外部からの支援受入れを一切拒否されている方でしたが、お子様からのご要望で安否確認のために訪問を続けたところ、玄関先までは受け入れてもらい、雑談ができるまでになりました。</li> <li>○ 自宅では無理であろうと言われていた一人暮らしの高齢者をご自宅で看取ることや、介護依存度の高い利用者でも施設ではなく在宅生活を送れるように支援することができている。うまく緊急コールを利用され随時対応をすることもできています。</li> </ul>

(2) 夜間対応型訪問介護	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ トイレに行こうとして転倒したと、利用者様から連絡が入りました。連絡時、「ケガはない」とのお話でしたが、訪問したところ、額にけがをされていたため、オペレータの判断で救急隊を要請しました。搬送後、脳出血と診断され、一命を取り留めました。</li> <li>○ 旦那様の入院中に奥様が一人で家事を行っていたところ、奥様が転倒して連絡が入りました。退院後、旦那様より「妻が転倒してもすぐに対応してもらえるので、安心して入院していることができた。」と仰っていただきました。</li> <li>○ 姉弟ともに精神疾患がある利用者様。姉より弟が「倒れたので来てほしい」と連絡あり、ヘルパーが訪問すると心肺停止状態だったため救急要請を行いました。</li> <li>○ 深夜に旦那様が奥様のトイレ介助を行う際に転倒したとの連絡が続いたため、定期的にヘルパーが介助するようになりました。ヘルパーの介助により転倒がなくなり、旦那様も朝までゆっくり休めるようになったことで、在宅生活を継続することができています。</li> <li>○ 精神疾患のある利用者様から連絡が入るも応答ないことがありました。ヘルパーが駆けつけると、庭に素足で利用者様がいました。夜間、寝室の窓から転落されたようでした。玄関が施錠されているために家の中に入れず、首から下げていたペンダント型の連絡ボタンにより連絡をされたそうです。ヘルパーがお預かりしていた鍵で無事に家の中に入れました。</li> </ul>

(3) 地域密着型通所介護	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動にご興味のある方や身体機能の維持・向上を目的に通われている方が多いです。運動もしたい、人との交流もしたいと思っている方、一人暮らしのため人とお話しがしたい方、歩いて通いたい方にも利用していただいています。</li> <li>○ リハビリの専門職員と運動について熱心に話をしている利用者様もいます。「家でも教わった体操をやっていますよ。」「休もうかと思ったが、デイサービスに来て体を動かして良かった。」「自分は運動には消極的だったが、デイサービスを利用して、他の利用者から刺激を受け、運動に興味を持つようになった。」と仰っていただきました。運動に対して意欲的になり、利用者様同士が積極的にお話しされています。</li> <li>○ 利用者様と地域の方々が見知りになっています。</li> </ul>

2	<p>デイサービスの利用に抵抗があった方でも利用し始めたら満足していただきました。「外出のレクリエーションが多いので刺激になっています。」「制作のレクリエーションが多いので手指を動かす訓練になる。」という声を多く伺います。</p>
3	<p>小規模のデイサービスのため、大きい施設だと気持ちが落ち着かない方や、他の利用者と沢山お話をしたい方、リラックスして過ごしたい方等のご利用が多いです。人員も手厚いので、自分のペースで過ごしたい方にも向いていると思われます。加えて、宿泊サービス(介護保険外)もあるので、ご家族の介護負担軽減を図るとともに、ご自宅に近い環境で利用者様も安心して過ごすことができます。</p>
4	<p>○ 畑を借りており、草むしり、収穫、料理等に楽しそうに参加していただいています。 ○ 少人数のグループなので利用者様同士が顔なじみになっています。利用者様がお休みされていると次にいらした時に「どうしたの?」と声を掛け合っています。いつも楽しく笑い声いっぱい活動されています。麻雀、工作、カラオケ、五目並べ、トランプなどそれぞれの趣味を楽しみながら、生き生きとされています。</p>
5	<p>○ ストレッチ体操:身体全体を動かすので、腕や下肢をしっかり伸ばすことができ、終わった後にすがすがしい気持ち良さと身体の軽さを感じることができます。声出しもするので元気が湧いてくるようです。 ○ 足温浴:デイサービスで足温浴をするまでは、足先が冷えて夜眠りに着くことがなかなかできないことが多かった方が、今は足温浴の後、帰宅してから夜まで冷えず、ぐっすり睡眠がとれるようになったとおっしゃっていただきました。 ○ 整体。下肢の疲労で歩行時の一歩が重たく感じることに悩みがあった方が、デイサービスの整体を利用するようになって疼痛や疲労が緩和され下肢が軽くなり歩行がスムーズになったとおっしゃっていただきました。会話をしながら行えるので、気持ちが明るくなれたというお声をいただきました。 ○ マントレーニング:マシンを使うことで腕の筋肉が以前よりついて、負荷を上げトレーニングすることができた。腕が上がるようになり、家事をするときに物が取りやすくなった。前屈気味だが、マシンの後は背が伸びて視界が広がる。マシンを使って蹴り上げをすると、足の動きが良くなり、自宅の階段の登り降りがしやすい。開脚することで、筋肉を伸ばしながら筋力を鍛えられるので、「膝回りの筋肉がつき転倒をしなくなった。」「不安になることが減った。」とおっしゃっていただきました。</p>
6	<p>○ 規模が大きいデイサービスでは周囲と馴染みにくく、外出の機会を持てなかった方が、小規模デイサービスでは環境に慣れるのも早く、他の利用者とも密な付き合いができるため、社会参加の機会をもつことができます。 ○ 通所時にご家族と一緒に歩いてくることができ、宿泊サービス(介護保険外)も含めての利用することで、ご家族が自分の時間を作ったり、仕事の出張などにも対応することができるので、在宅生活を継続することができます。 ○ 夜間のせん妄、徘徊があり、ご家族でお世話を続けることが難しくなってきた方が、すぐに施設を決められなかったため、施設入所までの期間、宿泊サービス(介護保険外)も含めて利用されました。 ○ 病院から退院を勧められたが、一人暮らしで一人で夜間過ごすことが不安な利用者様の心身の状態が落ち着くまで、または施設が決まるまでの間、宿泊サービス(介護保険外)を含めて利用されました。</p>
7	<p>○ 近隣の方との接点が増え、サービス利用以外の時間でも社会交流を持つ利用者様が増えました。</p>
8	<p>○ レクリエーションに活動に参加されない利用者様がいますと、利用者様同士で励まし合ったり声を掛け合ったりして、仲むつまじい場面が多くあります。 ○ レクリエーションで、勝っても負けても万歳したり拍手したりと、利用者様同士がお互いを思いやる場面があります。</p>
9	<p>○ 利用開始時はうつ状態であった方。お出掛けなどで季節を感じたり他の利用者様との交流を深めていくうちに外出することに意欲的になり、うつ状態が緩和し、ご本人にもご家族にも笑顔が戻り、週1回の通所を毎日心待ちにされていました。 ○ 認知症の利用者様。当初は3年程でお子様の顔も分からなくなると言われていましたが、デイサービスに通い脳トレや裁縫、おやつ作りに参加することで介護度を維持できています。8年経った今でもお子様の顔を忘れることなく変わらず自宅で生活をされています。</p>
10	<p>1日を通して楽しんで過ごされています。「デイサービスに来る日が待ち遠しいわ」と言ってくださいます。</p>
11	<p>自宅で何もせず不規則な生活をしていた方。デイサービスに通所して初めのうちはお話しするものの脳トレや歌唱、体操、テーブルゲームには参加しないで過ごしていたが、他の方々が参加しているのを見て、1か月2か月が過ぎた当たりから各活動にも参加し始めました。時にはこれまで敬遠されていた、塗り絵にも参加されるようになりました。また、ご自宅では一度もやったことがない洗濯物を干す作業もされています。</p>
12	<p>○ 難聴の方で人が多いと聞きとりやすく、あまり話さない方でも、少人数なので一人一人とコミュニケーションが取りやすいです。認知症の方とも、1対1で会話する時間が持てます。 ○ 利用者様同士のご自宅が近く、お店などの話題も共有できます。 ○ お風呂にゆっくり入りたい、できるだけ自分で入りたいなどの希望にある程度応えることができます。 ○ 体操では一人一人の表情、動きを見守ることが出来ます。元気がない時は声出しをしてもらおうと表情が明るくなりました(精神的効果)。運動療法を行うことにより歩行が安定しました。足踏み、かかと上げを行い、座りきりを防止しています。足指、肩などの基本の体操を習慣化しています。</p>

13	農業体験を行っています。小さな農園ですが春は地域の方々とお花見をしています。野菜の販売をしていて、購入するのを楽しみにしてくださっています。春には野菜の植付け、夏には野菜(ジャガイモ、大根、人参、ブロッコリーなど)の収穫をしています。秋には野菊の咲く農園で柿の収穫や干し柿作りに皆さんで汗を流します。なお、毎月、社会福祉協議会のボランティアの先生が紙芝居と手品でデイの皆様の喝采を浴びています。
14	こぢんまりとした雰囲気を利用者様が過ごすことで、集団で行うレクリエーション(ちぎり絵など)やゲームで一体感が生まれません。和気あいあいとした雰囲気です。浴室浴槽を広く設け、浴槽内ではゆったり両足を伸ばせるので、とても喜ばれています。また、昼食ではなるべく手作りのメニューを提供することを心掛け、普段、ご自宅では食べられないメニューで喜ばれています。狭いですが目の行き届いたサービスを提供できるところが小規模デイの強みと考えています。
15	会社員時代はこぶしハーフマラソンに参加するなどスポーツ好きで行動派、仕事も趣味も楽しんでいた利用者様。脳梗塞発症後、リハビリ病院を経て、デイサービスを利用されています。スポーツクラブでランニングマシンを使ってトレーニングをしたり、ハーフマラソンに参加したりすることが目標だそうです。旦那様が少しずつ体力をつけ、歩行状態が良くなったので、奥様もヨガを再開されました。少しずつ自信を取り戻しオリンピックの聖火ランナー募集に応募されたり、仕事も自宅で再開されています。
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ お子様の介護をされているお母様。通所を近所に知られなくなかったそうですが、イベント活動などに参加・見学され、徐々に相談事ができるようになりました。近所の方もお話されるようになり、理解、協力も得られるようになったようです。</li> <li>○ 一人暮らしで閉じこもりがちだった方でも、少人数での活動で参加しやすかったようで、すぐに仲間ができました。デイで入浴や、バランスの良い食事をとることができ、短期間で他の利用者様とのコミュニケーションも増え、孤独感がなくなったと言っていました。</li> <li>○ 混乱することが多い方が、昼食作りで献立の一品を担当してもらったことで「自分はまかないの仕事がある。」と役割を認識され、前向きになり、混乱をすることが少なくなりました。デイサービスで役割を持って活動されています。</li> </ul>
17	少人数なこともあり、天気良ければ毎日近隣の公園まで散歩しています。月1回、車で、光が丘のイチョウやお寺の紅葉、石神井公園の八重桜などを見にいけます。おやつ、外出等も企画しています。
18	○ 認知症のためご自分では着替えや排せつなどができにくくなっていたり、日常生活の質が落ちてきた方。お子様宅での宿泊以外はデイに通所していただき、様々な支援をしたところ、身支度や排せつはほぼご自身でできるようになり、今ではデイを盛り上げてくれる明るく中心的な存在になっています。デイの大家さんに収穫したばかりの野菜を見せてもらったり、庭のお花を見ながらお茶を出してもらい、お話をしたり交流をしています。お散歩に参加していただき、近所の方とお話したり、周りの風景を見て気分転換を図っています。ボランティアの音楽レクリエーション、インターンシップで来る学生との交流などを行っています。ご自宅やご家族と過ごしているようなアットホームな対応を心掛けています。
19	散歩中に当施設を気にされており、職員が通りがかりに声をかけ「分からないことがあったら連絡をください。」と名刺をお渡ししました。後日、近所にご夫婦で住んでおり、包括が支援しているご家庭だと分かりました。奥様が通所を開始してしばらくして、旦那様をご逝去されました。奥様は喪失感とお一人暮らしの寂しさもあり、精神的に不安定になっていましたが、通所を継続し、今は「行けるのが楽しい。」と週4回通所しており、通所日ではない日も施設の前を散歩されたり、送迎中の職員と挨拶をされたり、精神的に安定されています。
20	骨折によりご自身で身の回りのことをするのが難しくなり、外出の機会を失い、それまで行っていた手芸活動や地域の活動に参加されなくなった方。骨折により要支援2から要介護2となり、手芸のできるデイサービスを探していたところ、当施設に見学に来られ、ご利用が決まりました。大好きな趣味活動(手芸や他者との交流)をする中で意欲が向上し、大好きな手芸の作品をデイサービスで展示することで創作意欲も湧いてきて、外出の機会も以前のように増えてきました。
21	<p>毎日同じコースを徘徊する方に、午前中1時間半職員が付き添って歩きました。ご本人は実家に行くと言いながら歩きます。実家の住所は言えますが、現在住んでいる家の住所は忘れてしまって言えませんでした。毎日ご利用されていましたが、毎日「初めて来た。」とおっしゃっていました。3年くらい経った頃から「来たことがある。」「いつも来ている。」とおっしゃってくれるようになり、他の利用者様と一緒に歩行訓練で外出できるようになりました。他の利用者様とも会話ができるようになり、カラオケも楽しみ、歌いながら涙することもありました。</p> <p>(支援内容)職員が利用者様の気持ちを受け入れて徘徊に付き合いました。周りの利用者様を巻き込んで会話をしました。利用者様の好きな歌をご家族から聞いて、カラオケで歌ってもらいました。昔の職業や家族の名前を盛り込みながら会話をしました。「帰りたい。」とおっしゃるときは、付き添ってご自宅へ行き、鍵がかかっているから入れないと理解してもらうことで、ご本人は納得して「帰る。」とおっしゃることは無くなりました。</p>
22	認知症の方とそうでない方がいらっしゃいますが、利用者様同士がお互いを尊重し合っていますので、利用者様同士で会話を楽しむことができています。

23	<p>○ 旦那様のご逝去後、お子様宅で同居している利用者様。リビングの半分程に介護ベッドを置き、利用者様の居住空間としていました。耳が遠いため、ご家族との会話も少なめでした。お一人での外出はご家族が心配されるので、散歩などにも行けずでした。料理や洗濯などの家事をしたいというご本人の希望に沿い、職員が見守りながら洗濯物干しや調理などをさせていただきました。外出もして、季節を感じながら生活できることに、とても喜んでくださいました。</p> <p>○ ご夫婦で生活されていましたが、骨折後車いす生活となりで近隣のお子様宅に同居している利用者様。家事がしたいという希望に沿い洗濯物を干すハンガーを低くし、車いす生活のまま干せるようにしました。</p>
24	<p>○ ご自宅では一人で椅子に座ってテレビを見て過ごすので歩行ができなくなっていた方。通所の楽しさを伝えながら一緒に階段や通路で歩行の練習をしていくうちに他の利用者様とのイベントやレクリエーションも楽しくなってきた様子です。今では、積極的に通所をして、週5日間楽しみながら歩行の練習を行い、ご家族の心配もなくなりました。</p> <p>○ 通い始めたころは徘徊や、玄関のドアをたたいたり、蹴ったりしてしまうことがありましたが、職員と信頼が築けた後は、不穏な様子もなくなり、一日一日楽しみながら我が家にいるような様子で過ごされています。丁寧に支援をしていくことで徐々に心を開いていただけたようです。小規模デイだからこそ、マンツーマンに近い形で支援ができ、利用者様とご家族と身近な関係が作れました。</p>
25	<p>○ 一人暮らしの方で鍵の開け閉めに介助が必要な方や鍵の管理が難しい利用者様に対し、送迎の職員が支援しています。</p> <p>○ 一人暮らしの方で小規模デイに通所するための身支度に介助が必要な利用者様に対し、送迎の職員が着替えや持ち物の準備を介助しています。</p> <p>○ 投薬や健康管理に対し、ご自身やご家族での管理が難しい場合、デイで薬(朝、昼分)をお預かりし、服薬管理しています。</p> <p>○ 高次脳機能障害の利用者様。はじめは雰囲気になじめなかったようですが、職員が1対1で会話をすることで落ち着きや活動意欲が湧いてきました。</p>
26	<p>小規模のため、家庭的な雰囲気でお利用者様が伸び伸びとされています。認知症の方も、周りの方が温かく見守っています。</p>
27	<p>栄養失調、肝硬変で入院され、退院後通所されている利用者様。デイに通うことで、昼食はバランスの取れた食事をしていただけるようになりました。はじめのうちは週に何度かのご利用でしたが、今では毎日通っています。食欲もあり、毎日完食していただいています。一人暮らしの方で、初めは「デイサービスなんて。」とおっしゃっていましたが、今では他の利用者様とよく談笑されています。ご利用されるようになり良かったと思っています。</p>
28	<p>○ デイサービスに来ると同年代の方と同時代(昔の話)の話ができます。家族に話すと「そんな昔の話。」と言われてしまいますが「共感しあえる仲間がいるのが楽しみ。いっぱいおしゃべりできる。」とおっしゃっていただけました。</p> <p>○ 「家にいると必要な時以外は体を動かさずとしないが、デイに来るとみんなと一緒に動かしてしまふ。体を動かした日はぐっすり眠れるので、体操をすることが楽しみで次回は待ち遠しい。」とおっしゃっていただけました。</p>
29	<p>1年前にろっ骨を骨折し、長期間入院をして、足の筋力が大きく低下した方。足の筋力が低下していることがとても不安で外出がほとんどできなかったそうです。筋力の向上、運動不足の解消のためデイサービスの利用を開始しました。歩行時は職員が両手で支えながらスロープを使って乗車や移動をしていました。デイサービスではスクワットや立った姿勢を行う運動を積極的に行い、下半身の運動をご本人に意識していただきました。3か月後には、職員が片手で介助すれば、歩行で移動・送迎を行えるようになり、同時に4点杖を使用することで外出もできるようになりました。週2回通うことで、筋力の維持・向上を図ることができました。リハビリだけでなく、スタッフや他の利用者様との交流も楽しんでいたので続けることができたようです。現在は、介助なしで歩けるように足腰を強化していくことを目標にしています。</p>
30	<p>施設の近くにお住まいの方で、今まで何十年も住み慣れた地域でデイサービスを利用したいとのことで、ご利用いただいています。話題も地元の話が中心で楽しく過ごされています。</p>
31	<p>○ 入浴特化の半日型施設のため、利用者様の座席を職員が工夫し、気の合う方同士で隣同士または近くに座っていただくことによって、交流が生まれています。それにより、施設利用の増加につながったり、利用者様同士での交流が生まれ、施設利用ではない日にカラオケに行かれていた利用者様もいるようです。</p> <p>○ 入浴への不安があった利用者様。入浴支援により、比較的軽度な方(要支援、または要介護1の方)が、入浴への自信が付いたとのことで、施設サービスを卒業された例もあります。その際には、自宅入浴での注意点や工夫などもお話しさせていただき、ご理解をいただいで卒業となっております。※ご自宅での手すりの必要性をお伝えし、担当ケアマネジャーと情報共有をして、手すり導入となった例などもあります。</p>
32	<p>利用者様の社会参加を促す活動として、近隣の公園や農園等まで歩いて行って、利用しています。地域の老人会の方々(音楽、折り紙、手工芸等)に来ていただき、利用者様に老人会の活動を体験していただくとともに、地域のつながりを理解してもらえように取り組んでいます。ボランティアの受け入れも積極的に取り組んでいます。その他、6か月に1回程度、運営推進会議を開催し、施設の活動状況の報告を行っています。</p>
33	<p>○ 夏バテで食欲をなくしていた利用者様に、毎回スタッフや他の利用者様が声を掛け、お食事を勧めることで、少しずつ食べる量が増えました。</p> <p>○ 初めてデイにいらしたときに、体操などをやることに渋い顔をしていた利用者様が、徐々に自分から体操のリクエストをするようになりました。歩行訓練の時、はじめの頃は途中で2回程休んでいましたが、近頃は休まずコースを歩いています。</p> <p>○ 利用者様に歩行訓練の声掛けをすると、「歩けない。おんぶしてよ。」とおっしゃっていた方でも、戻る時には「歩きに行けて良かった。」とニコニコされています。</p> <p>○ 合唱のとき、スタートの掛け声を利用者様にお願いすると、楽しそうに歌ってくださいます。</p>

34	<p>お一人暮らしのため人との交流が少なく引きこもりがちな生活を送っていた方がいました。デイサービスは週2回のご利用ですが、お近くにお住まいなので徒歩でデイサービスに顔を見せにいらっやいます。デイサービスで親しい人ができ、来るのが楽しみになった様子です。</p>
35	<p>○ ご自宅に帰りたいお気持ち強い日や集団での活動が難しい日は、個室で職員が1対1で支援しています。いつもと様子が違うような時はじっくりと傾聴したり、個別に脳トレや体操をしたりすることで気分を切り替えていただくことができています。 ○ 消極的で他の利用者様とのコミュニケーションが苦手な方へも職員が仲立ちすることで、会話の輪へ入っていただき、一日を通して疎外感を感じないように支援しています。10名の定員に職員が3～4人の体制なので全利用者様の様子や会話内容が把握でき、アットホームな環境での支援ができています。</p>
36	<p>定員が多いデイサービスを利用されていた方が大勢の中で落ち着かず、中々なじめなかつたためケアマネジャーから紹介を受けて小規模デイに見学にいりました。2回目のご利用後、ご自宅でも変化が見られたようで、同居されているご家族から「こんなに自分から話すのは久しぶり。通所の日は朝早く起きてお化粧もして通所を楽しみにしている。」というお声を頂きました。定員が少なく、全体的に落ち着いていて、職員の顔もなじみやすかつたようです。認知症の症状に変化はありませんが、職員や周りの方の雰囲気はしっかりと認識できるようになりました。</p>
37	<p>認知症と診断され、デイサービスの利用を開始されました。他の利用者様との交流を通じ、認知症と診断されたのがウソのようにしかりされ、皆様と楽しく過ごされています。やはり家に閉じこもっているよりも外に出て刺激のある生活を送ることは良いことなのだと思います。</p>
38	<p>○ デイサービスのご利用を迷われている方でも保育施設との併設であることで、子どもに会えるからとご利用を決めていただくことが多いです。 ○ 一軒家の1階部分を利用して運営しているため、家庭的でアットホームな雰囲気、安心される方が多いです。 ○ 生ギター演奏での歌の時間を提供しているので、歌が好きな方に喜ばれています。 ○ 家庭的な浴室で入浴することで、入浴介助に対する違和感が少ないようです。</p>
39	<p>○ 職員と利用者様との距離が近く、大人数だと物怖じしていた利用者様も抵抗なくなじむことができているようです。 ○ 難聴で普段の会話では周囲が何を言っているか理解できず、人前に出て会話したり、集団での活動にストレスを感じて自宅に引きこもっていた利用者様も、職員がそばに付いて話しかけたり、職員が間に入ったりすることで他の利用者様との交流を楽しむことができている。ホワイトボードを利用して対応することもあります。</p>
40	<p>○ 利用開始当初は、職員が帽子とマスクを取ろうとすると、「わあー」と大声を出して拒否される利用者様がいました。「帰ります！」と興奮して椅子をガタガタゆすって椅子から転げ落ちそうになることもありました。一つのテーブルを囲んで座る小規模デイなので、他の利用者様がご心配される状況が続いていました。雰囲気作りを大事にしているデイであるため職員間で接し方を統一して、いつでも静かで穏やかな声掛けと態度で接するようになりました。3か月後、大声を出す回数が減って、帽子やマスクをご自身で取るようになり、笑顔も見られるようになりました。ご家族からも「デイから帰ってきた時は穏やかな表情で楽しい時を過ごせたようで、うれしいです。」との感謝の言葉をいただきました。 ○ 酸素濃度の測定器を常に気にして、その数値にこだわって往診医や訪問看護師を頻回に呼び出すため、家族や関係者は困っていました。趣味が写真を撮ることでカメラを持って旅をしたことを懐かしがってお話されるので、デイサービス利用を提案しました。光が丘公園を散策する予定の水曜日のグループにご参加いただきました。光が丘公園へ車いすに乗って久しぶりの外出をされました。カメラを手渡すと酸素吸入していることを忘れて身を乗り出して道端の可憐な花や池のカモにシャッターを切っていました。3回の通所後、自宅で家族に看取られて最期を迎えられました。デイサービスに通所中は「苦しい」とおっしゃることなく、他の利用者様と談笑して、病気のことを忘れたように過ごされていました。 ○ 毎日あちこちの病院巡りをしており、病院からはケアマネジャーに「何とかしてください。」と連絡が入り、近所の人からは道路で転倒しており一人では起き上がれないようだとの通報が何回もあり、ケアマネジャーが対応に苦慮していました。デイサービスの利用を提案しましたが「俺はそんな堅苦しいところは苦手だ。行かないよ。」と拒否されました。ヘルパーの作る食事に対する不満を言っていることを知り、「デイサービスに昼食を食べに来ませんか。」と声かけをしました。人見知りするタイプでしたが、人嫌いではないという性格を理解し、職員が他の利用者様とのつなぎ役になってグループの輪の中に入れるように手伝いました。グループに溶け込んでいく様子をみながら、デイの滞在時間を少しずつ延長して週3回の通所となり、いつしか病院巡りをしなくなりました。 ○ じっくりと利用者様に向き合うことができ、利用者の表情やしぐさ、身体の動きなどの変化に気づきやすくなりやすに対応することができます。また、家庭的な雰囲気を大事にしています。曜日ごとの1グループでまとめており、一人ひとりに役割を持っていただき、利用者様のご意見を取り入れてその日のプログラムを変更するなど柔軟な対応をすることにより、利用者様、職員が共に喜び、楽しんでいます。</p>
41	<p>○ 運動したいけれど、公園や屋外では天気や左右されたりや転倒リスクがある、スポーツクラブは若者ばかりで気が引ける、自宅での自主トレは長続きしないしモチベーションが続かない、また間違った運動をして逆効果になることもある、持病や認知症の症状があるため一人での運動や外出は心配、そもそも引きこもりがちで外出する機会がない、このままでは足の筋力も落ち、身体も動かなくなり自立した生活が将来困難になる不安を感じている、自立した生活ができなくなると家族や配偶者に迷惑をかけるようになるのが怖い、と言った方々に、「往復の送迎があり、看護師や専門職に見守られた中で安全に運動できる場所」としてご利用していただいています。 ○ 毎週決まった曜日や時間に通所することで生活にリズムができた。外出することで、お化粧、髪型、服装といったことに気を遣うようになった。同じ地域の世代の近い方との交流を持って、共通の話題や悩みなど共有できるようになった。認知症は病気であり、予防改善が可能であるというように認知症に対する考え方が変わった。家族以外の人との交流を持つことでコミュニケーション能力が向上した。自分の身体が意外と動かないことや、身体の弱点が見え始めた。身体を動かしやすくなり、日常生活が楽になった。物忘れが減り、認知機能の向上を感じられた。送迎中に街中や懐かしい場所を通ったり、季節の移り変わりを感じられた。明るくなった、ご自宅でデイサービスでの出来事を話したりするようになった、と言っていました。</p>

42	少人数のデイなので、なじみやすく、利用し始めてからは笑顔も増え、食事量も増えました。また、歩行状態も良くなり、外に出る意欲が湧いてきました。
43	飲食店を経営していた要介護の利用者様。脳卒中で片麻痺になり、お店を続けることが難しくなりました。自宅の飲食店は廃業し、それから熱心にデイサービスに通っていただきました。1年後、心身機能が向上して、日常生活はほぼご自身でできるようになりました。利用者様はデイサービスを卒業して、再度、飲食店を開業しました。私たちスタッフは、皆で利用者様のお店に行ってお祝いしました。
44	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民家を改装した施設なので、自宅にいるような、または自宅の延長としての機能を持ち、利用者様にとってもなじみやすいようです。</li> <li>○ 緊張感なくご利用いただいています。</li> <li>○ 初めて介護サービスを利用する方や、大人数が苦手な方が多く利用されています。</li> <li>○ 介護サービスに対する拒否が強い方にも利用していただいています。</li> </ul>

(4) (介護予防)認知症対応型通所介護	
1	<p>&lt;外散歩では&gt;</p> <p>○ 川沿いを歩き、「昔は川で遊んだ、鯉が泳いでいた。台風が来ると水があふれて大変だった。桜並木は両サイドに植えてあり、もっときれいだった。」と昔話に花が咲き、「そうそう、そうだったわねー」と懐かしい話を共有することで利用者様の関係が良くなり、親近感を持ち、顔なじみとなるきっかけにもなっています。昔のことは明確に覚えていらっしやるので、その方の自信につながっているようです。職員が聞き役になり、利用者様が話の中心となる関係は職員にとっても、うれしいです。</p> <p>&lt;地域交流&gt;</p> <p>○ 近隣の保育園との交流(敬老の日の訪問、散歩の途中での立ち寄り等)で顔なじみとなり、お互いにあいさつや手を振ったりするようになり、運動会に招待して下さったりと多世代交流をしています。「私たちもあんな頃があったのかしら～」とご自身の子供時代や子育てをしていた頃のお話をされたり、ご利用中見たことのない笑顔をされ、穏やかに目を細められる様子があります。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 躁うつ状態が激しく徘徊があった方。転倒骨折後、運動量が減少していました。ご本人の得意なクイズ、ぬりえの提供、カラオケの参加、料理作りの声掛けでうつ状態が軽減されています。</li> <li>○ 徘徊し転倒後、歩行が不安定になり、引きこもりとなっていた方。お子様は仕事で、介護の手が届かないところが多くあるためデイサービスの利用を開始されました。車いすによる送迎、じょくそうの手当、夕食の提供などで食生活が安定しました。入浴(リフト浴)や利用回数の増加により、体重が増え、笑顔も増えました。利用を楽しまれているようです。</li> </ul>
3	<p>認知症対応型通所介護における家族懇談会(茶話会)でご家族から以下のような意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ デイサービスへ行くことが良い運動の機会になっています。</li> <li>○ ここ最近認知症の症状が進行したように思いました。私のいうことを聞いてくれず、怒りたくなりますが、我慢しています。デイサービスを利用中は、自分の休息や時間を作ることができているので、助かっています。</li> <li>○ 食事にも注意していたので、デイサービスセンターの食事を食べるようになり、血糖値が下がって良かったです。</li> <li>○ デイサービスを利用することで自分で着替えたり、夜は寝間着に着替えるようになりました。</li> </ul> <p>事業所では、利用者様の誕生日会を開きご家族を招待して一緒にお祝いしました。記念写真を撮ってプレゼントし、ご自宅に飾っていただいています。</p>
4	<p>現在の認知症対応型通所介護を利用する前は、他の通所介護を何か所も転々とされていました。理由としては落ち着かなく徘徊、時には奥様を探そうとして外を眺めたり、入口付近でずっと待っていることが度々あるためでした。奥様自身も罪悪感があり、かわいそうになって利用開始、中止を繰り返されていたそうです。現在のデイサービスを利用するにあたり、事前面接や利用者様の背景、課題分析に重点を置き、利用者様についてしっかり把握、職員間で共有をしました。初回は緊張ながらも職員との会話、散歩という個別プログラムに参加していただくことができました。その後は職員と顔を合わせると笑顔が見られて、送迎車に乗車されます。どのような支援が必要かの把握をしっかり行い、共有することでご利用者様も負担なく安心して利用ができています。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 認知症の症状の進行により、馴染みのお店にお金を持たず1日に何度も出かけたり、早朝や夜間に近所の方宅へ食事を求めて訪問していた方がいました。地域の方と相談の上、ご本人の居場所として理解してもらえるよう「食事会への参加」として通所をご提案しました。利用後には徐々に変化が見られ、お店や近所の方宅へ訪問することもほぼ無くなりました。</li> <li>○ 囲碁、将棋が大好きで、通所されると隣席の方に「囲碁をやりましょう。」と何度も話す利用者様のために、地域のボランティアを募集しました。今はボランティアの方と囲碁を楽しんでいます。囲碁の話が出た時に、つぎに行く時間や曜日を伝えると嬉しそうにされています。</li> </ul>
6	<p>アナログ時計を大きいデジタル時計に変更しました。一日のスケジュールを分かりやすく表示しました。これらにより今がどの時間か理解していただくことができ、帰宅願望が減りました。</p>

7	外出(公園リハビリ歩行訓練)や手芸、言葉ゲームをしています。認知症ケアとして毎日名前や日記を書いていただいています。
8	週3日のご利用の方。ご利用前はご自宅でイライラしたり、昼間に寝ていることが多かったようです。通所に来ていただいているときは当初よりも活発にお話されるようになり、定期通院時に主治医から「以前よりも元気になったようですね。」とびっくりされていたとのことです。

(5) (介護予防)小規模多機能型居宅介護	
1	小規模多機能型居宅介護は通いに抵抗のある方でも訪問対応ができます。状況により、訪問を1日に何度か行うことができるため住み慣れた地域で在宅中心での生活が可能です。通院も練馬区内であれば同行しています。急な体調の変化により宿泊もできるため、利用者様の希望に合わせる事ができます。お一人暮らしの方の買い物同行や美容室への送迎なども行っています。
2	通い、宿泊、訪問とサービス内容や時間帯の対応範囲が広く、急な休みや宿泊ができること、利用者が慣れていなく、施設に行くのが気が進まなくても短時間昼食を食べて帰宅したり、入浴だけして帰宅するなど、自由に設定できます。施設に慣れると、朝施設に来て夕方帰宅または泊まって次の日に帰宅するなど、柔軟に対応することができます。運営推進会議によるご家族、近隣住民への報告や質問にお答えして家族会などで個々に日々の相談などにも対応しています。町内会のイベント参加時には、利用者様はなじみの方に会ったりお話ししたりしています。
3	○ 夏に熱中症でご自宅で倒れているところを救急搬送され、その後の体調回復のために連続宿泊で利用を開始した方がいました。体調の回復に合わせて、宿泊日数を減らしつつ「通い」と「訪問」を増やし、地域のボランティア団体の有償支援も活用して、ご自宅での生活に戻ることを目指しています。 団地の3階(エレベータなし)にお住いの利用者様。認知症の診断を受け、要介護2の認定を受け、お子様の月2回の訪問とご近所の友人の支援で何とか生活を継続されていた。お子様は福祉サービスを使おうとしたが、「家に私がいなくて隣人が財布を盗みにベランダから入る。」等とおっしゃって、外出拒否が強く利用に至らずのまま一年の介護認定期間も切れてしまいました。病院には行きたくないと勝手に通院を中断し、「医者も薬を飲むのも必要ない。」と通院・服薬も拒否されていました。 当事業所の利用当初から訪問診療を利用し、利用開始後2週間が経過し、体調が徐々に回復してきたころ、多少の支援があれば3階のご自宅まで歩いて上り下りできることが確認できました。ご自宅での定期的な訪問診療を受け続けて、最初は週1日、自宅で過ごされることから在宅生活を開始しました。その後、事業所での宿泊日数を減少させつつ、同時に昼間は事業所への通いとご自宅への安否確認・食事確認等の訪問を増やし、ご自宅で過ごす時間を段階的に増やしていきました。事業所の各種サービスと合わせて地域資源のボランティア団体の有償支援(買い物、食事の世話、お茶のみと会話等)も活用して在宅復帰を目指しています。
4	他の事業所で介助が困難な方、家族だけでお世話するのが大変な方、自分(家族)が自力で通って来る方、一人暮らしの方等にご利用いただいています。
5	利用者様の急な入院から退院、その後の生活環境、家族支援、医療環境の調整を柔軟に対応することが可能です。ご本人の日常生活情報を積み重ねて把握しているので、病院など地域資源の状況をふまえて、それぞれの利用者様にふさわしいご提案をすることができるサービスです。 ○ 認知症と診断され、短期記憶の低下が著しく、5分前の食事や話などをすっかり忘れて繰り返す方。一方で一人で外出、徒歩で飲食や買い物に出かけ、しばしば帰宅先を忘れることがありました。お子様が台所に書き残したメモや食事の支度も日に日に用をなさなくなりました。当事業所へ週に4日「通い」、そのうち1泊は「宿泊」、併せて職員が「訪問」も行い、6年間生活を支えました。 利用者様は、糖尿病と不整脈の持病が有り、11月下旬に自宅で息苦しさが増し、近隣の病院へ入院されました。12月に入り、これ以上の治療や転院は困難との話が病院から家族にありました。当事業所は利用者様の入院中もご家族の支援を行うため、ご家族は連日事業所の管理者に電話で助言を求めました。管理者が病院の連携担当職員と話を重ね、年末、退院後に小規模多機能で受入れとなりました。利用者様とご家族、病院職員も落ち着き先が決まって安心できました。利用者様とご家族は毎週「通い」「宿泊」「訪問」を続けていたので、事業所となじみの関係になっていました。利用者様にとって、ゆっくりと就寝して食事も排せつもマイペースでできる新年を迎えることができました。退院時にも、主治医と年末の緊急時を想定して準備をしていますが混乱はありませんでした。その後、2月中旬に特別養護老人ホームに入所されました。当事業所と利用者様の主治医は日ごろから連携していて、診察に必要な「日常生活でできること」や認知症の症状を伝えています。当事業所は家族との距離も近く、特別養護老人ホーム入所手続を始めた際にも、特養の施設相談員にご家族の介護に向き合う心情を伝えることで、相談員の負担を軽減できました。

6	認知症の症状が進行し在宅生活が難しい方がいましたが、ご家族の「何とか自宅に戻してあげたい。」という想いにこたえるため支援しました。できるだけご自身でやってもらうことを心がけ、歩くときは必ず何かにつかまるようにお声掛けをして日常生活でのリハビリを行いました。「通い」を中心にご利用されることで、利用者様も生活の楽しみが増え、ご家族の介護負担も軽減できました。
---	--

(6) 看護小規模多機能型居宅介護	
1	脱水症状や栄養失調で入院を繰り返していた利用者様が、看護職員による服薬管理や医療処置に加えて、「通い」では夕食サービスをご利用されることで、安定した生活を送ることができました。また、体調不良時の急な宿泊や訪問介護のご利用により、ご家族の介護負担も軽減され、ご家族とご自宅で過ごす時間を作ることができるようになりました。

(7) (介護予防)認知症対応型共同生活介護	
1	食事の盛り付けや食後の食器の片づけ、食器洗い後の拭き物などを自らやったださり、日々の生活を取り戻し落ち着いて過ごされています。洗濯物をたたんでくださっている時、「これは〇〇さんの、これは〇〇さんの」と皆さん名前を確認しながらなされています。他の利用者様がやったださりしていると「私もやらなければ」と思われるのが「こっちでもするので何か手伝わせて」と元気な声がかかります。
2	認知症の症状が強く、食事を拒否されることもあった方が、徐々にグループホームに慣れ、食事作りや洗濯物たたみなどの家事も自らやったださりしています。面会にいらしたご家族やご友人との会話中、笑顔が多くみられるようになりました。認知症カフェや散歩、買い物など地域の方との交流を楽しんでいます。
3	買い物や散歩などを通して利用者様が地域とのつながりを生み出しています。外出や交流を楽しむことで生活の落ち着きを得られ、穏やかに過ごされています。また、事業所としても運営推進会議や地域の認知症支援会を通じて、地域で認知症の方を支える取組をしております。
4	利用者様の暮らしを基本に考えた環境づくりに取り組んでいます。
5	大病などない方が職員と一緒に作業を行いながら、元気で長く生活ができています。
6	<p>&lt;移動パン屋さん&gt; 毎週水曜日に当施設の駐車場に来ていただいて、販売をして頂いています。音楽を鳴らして、施設に来ている方や近隣の方、隣接の施設の職員の方にもご利用していただいております。当施設では、入居者の意思決定の支援のために、皆さんで昼食に食べるパンを選んでいただいております。パン屋さんや近所の方との関係づくりにもなり、毎週水曜日が楽しみになっているようです。</p> <p>&lt;幼稚園との交流&gt; 運動会にご招待いただき、お席を用意していただいております。まだ、一方的な交流になっていますが、将来は園児の方々にも施設に来ていただけるような関係づくりを考えていきたいと思っています。</p>
7	当初は入居を拒否されていた方が、入居後は得意なお料理の腕を発揮され、他の利用者様と助け合って生活をされています。近所の体操教室や水墨画教室、美容室も利用されていました。体力が低下してからは習い事や近所の美容室の利用は難しくなりましたが、軽い食事作りや掃除などは90歳を過ぎてからも継続されています。
8	認知症と診断された方が住居や地域に慣れるまでの間、近隣への毎日の散歩や地域の方にボランティア活動で施設に来ていただき、交流を図ることで、スムーズに環境に慣れていただいております。
9	ご夫妻とお子様で在宅生活をしていたが、旦那様の認知症が進みグループホームに入居されました。1年くらい経ち奥様も認知症の診断を受け、旦那様と同じグループホームに入居されました。旦那様の認知症の症状が顕著にみられ職員の言葉かけも受け入れられなくなってきましたが、奥様のことはとてもよく理解されており、奥様が声掛けすることで旦那様は穏やかに生活できるようになりました。お子様も家族介護の限界がきており、家できつい言葉を言ってしまったと落ち込んでいましたが、ご夫妻ともに入居がきっかけで適切な距離を保つことができ、心のゆとりが持て、一緒に外出して喫茶店などに行けるようになりました。ご夫妻は高齢のため、現在はお亡くなりになりましたが、お子様から「グループホームに入居できて、両親の絆などを見られて本当に良かったと思っています。」と言葉をいただきました。
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 徒歩5分程度の地域集会所で開催している腹話術に参加しました。利用者様の笑顔が見られ、楽しさが伝わってきました。</li> <li>○ 月に一度開催している認知症カフェへ歩いて参加しています。施設のケアマネが主催していて、顔見知りのスタッフもいるため緊張感もなくなごやかに過ごせる雰囲気があります。</li> <li>○ 施設の代表が月に一度、利用者様に合った季節の作品作りを企画し、物づくりを楽しんでいます。</li> </ul>